

岐阜県経済の現状



平成26年6月分
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは6月25日～27日を中心に実施し、7月15日に作成。

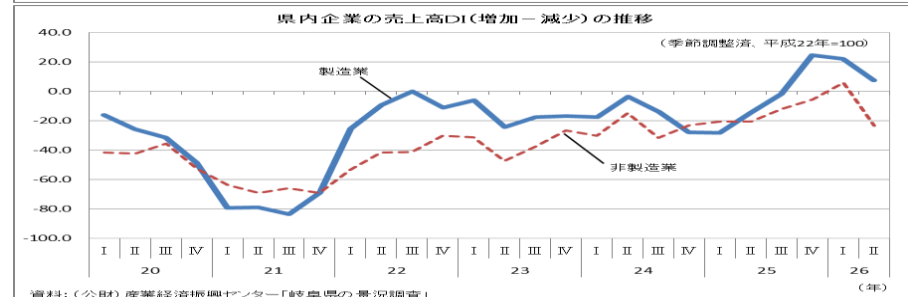
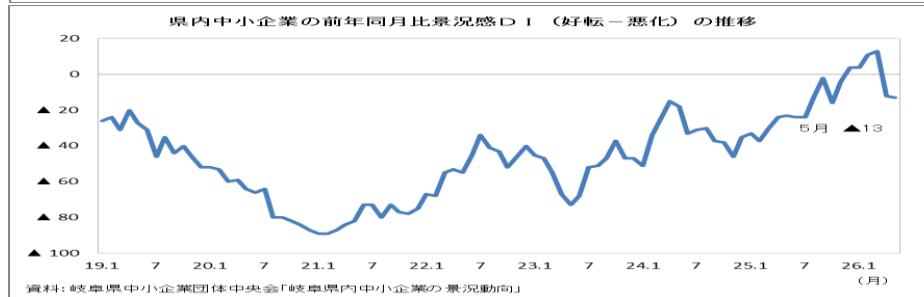
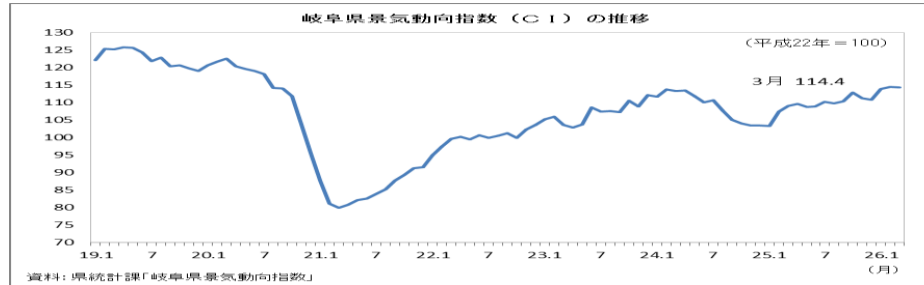
景気動向・製造業

○3月の景気動向指数(CI一致指数)は、114.4と前月より0.1ポイント下降した。

○5月の県内中小企業の景況感は、マイナス13と前月より1ポイント悪化した。

○4月の鉱工業生産指数は、90.9と前月比5.9%低下した。

○平成26年4-6月期の売上高は、製造業、非製造業ともに減少した。



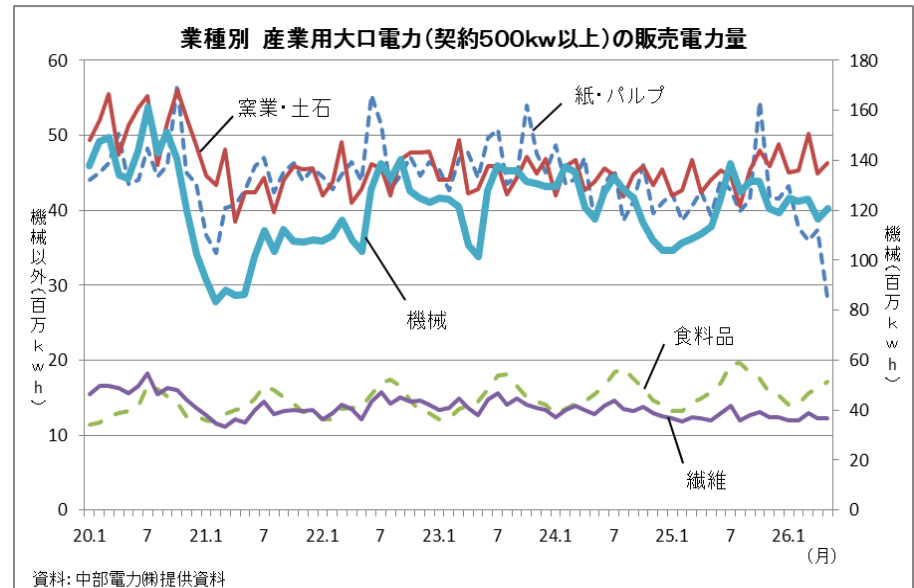
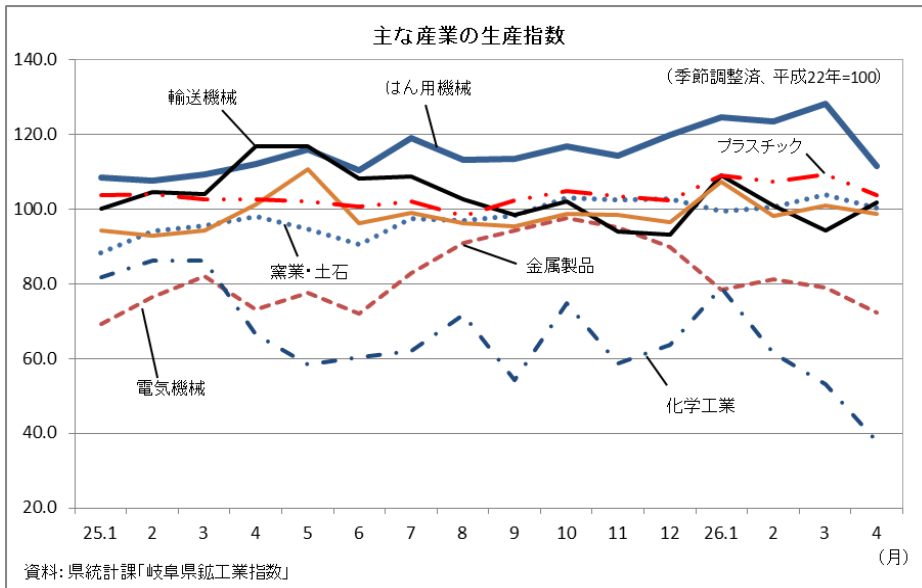
現場の動き

- ◆受注量は先月比若干下がったが、依然高い水準を維持している。
- ◆売上、受注量とも6月も堅調。海外向けが好調であった。(以上、輸送用機械)
- ◆回復傾向であるが、リーマンショック以前の80%程度。8~9月に受注が控えている。(電気機器)
- ◆売上、受注とも対前月比と横ばい。(非鉄金属)
- ◆受注量、売上額とも対前年同月比、対前月比で増加。(生産用機械)
- ◆6月の受注実績は、5月に引き続き若干増えている。(はん用機械)
- ◆受注量は前年同月比、前月比とも変わらず。売上は前年同月比で減少、前月比では変わらず。
- ◆出荷量は対前月で横ばいの状況。北米向けの車種の生産量が増加しており、引き続き好調。(プラスチック)

製造業-2(業種別)

○4月の鉱工業生産指数は、輸送機械が上昇したものの、化学工業、はん用機械、電気機械、プラスチック、土石・窯業、金属製品は減少。

○5月の工場向け電力販売量は、紙・パルプを除くすべての産業において、4ヶ月連続で前年を上回った。

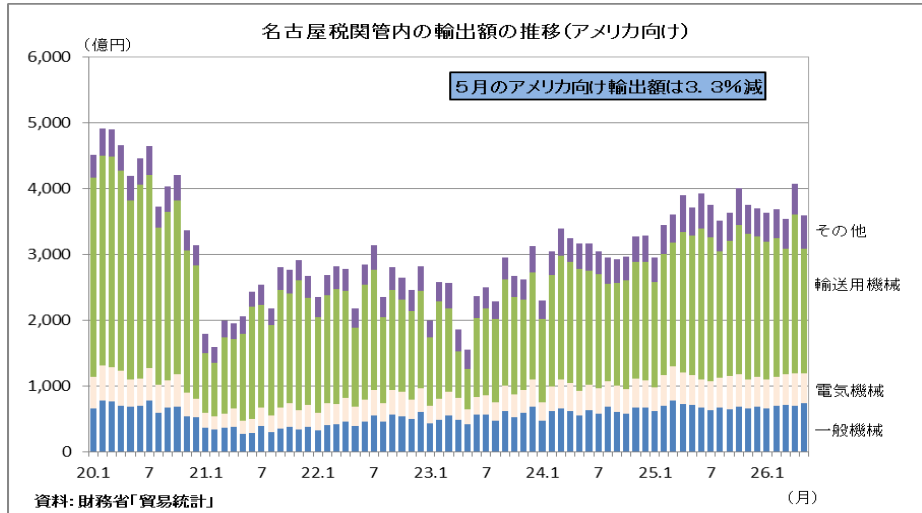
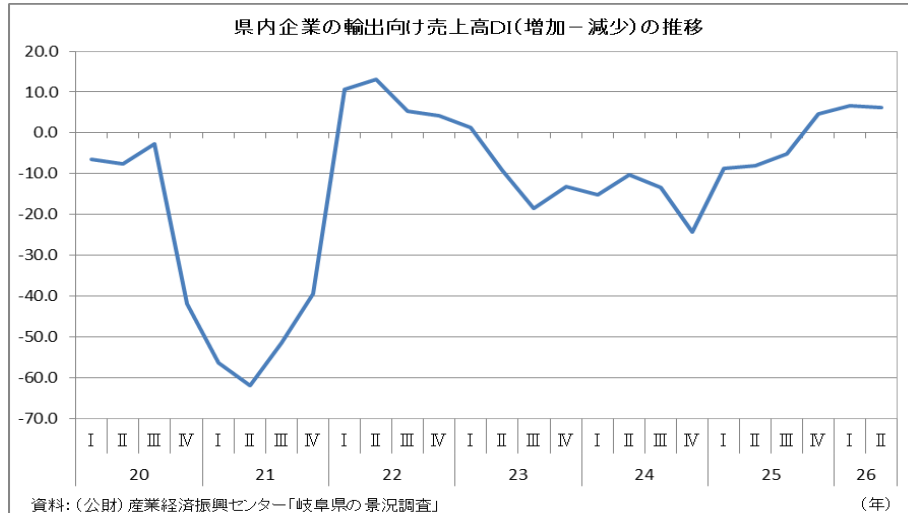
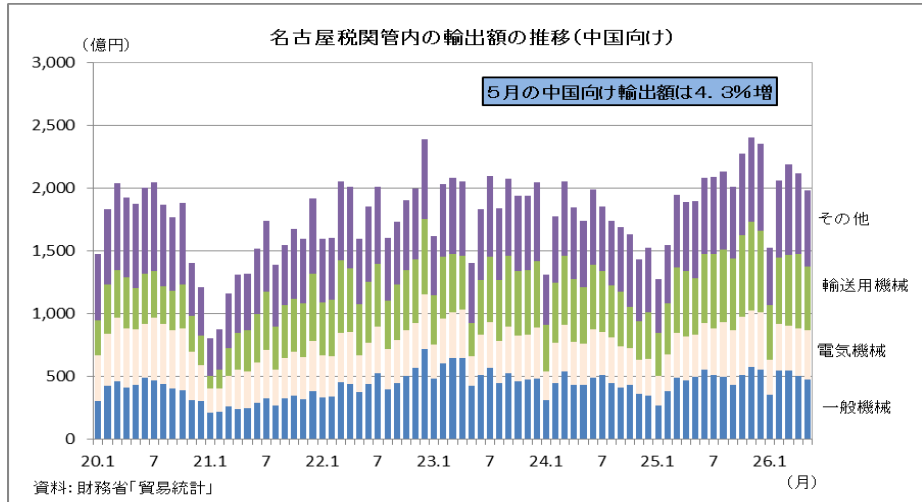
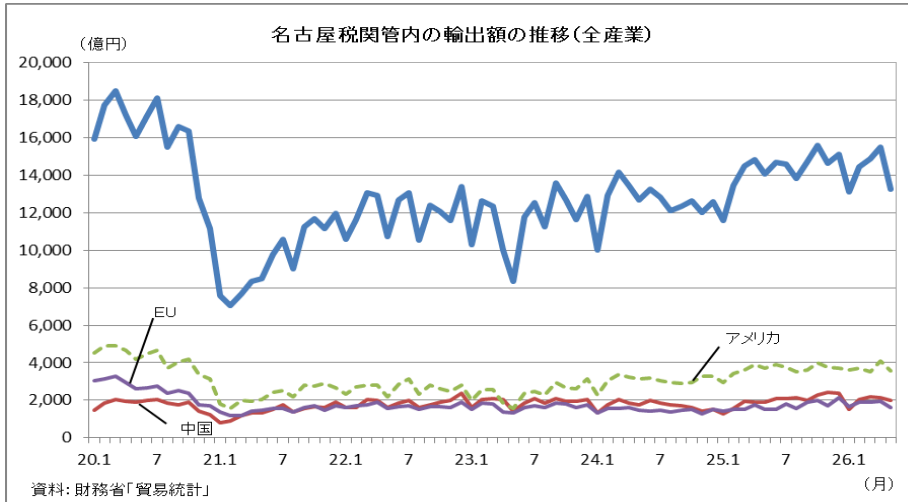


現場の動き

- ◆売上は前年同月比横ばい。コスト面で中国での生産に頼らざるを得ない状況。(アパレル)
- ◆国内向けは、売上、受注ともに変わっていないが、大口の景品需要などが少し戻っている。中国からの受注が好調な企業もあるが、安価な商品を求められ、大きな利益にはつなげない。(陶磁器)
- ◆今年の売上は例年通りで、消費増税の影響もなかった。(刃物)
- ◆スーパーへの卸、業務用が中心であるが、受注、売上とも減少気味。(食品加工)
- ◆景気については昨年の中頃とあまり変わらず良くはない状況。(紙)
- ◆先月よりも忙しい。業界全体としては消費増税前の駆け込み受注分の製造が一段落し、生産は落ち着きを見せている。(木工)

輸 出(名古屋税関管内)

- 5月の輸出額は13,246億円と前年同月比5.9%減と17ヶ月ぶりに前年を下回った。
- 中国向け輸出は一般機械とその他の減少を、電気機械と輸送用機械の増加が上回り、前年同月比4.3%増と14ヶ月連続で前年を上回った。
- アメリカ向け輸出は電気機械と輸送用機械が減少し、前年同月比3.3%の減少に転じた。

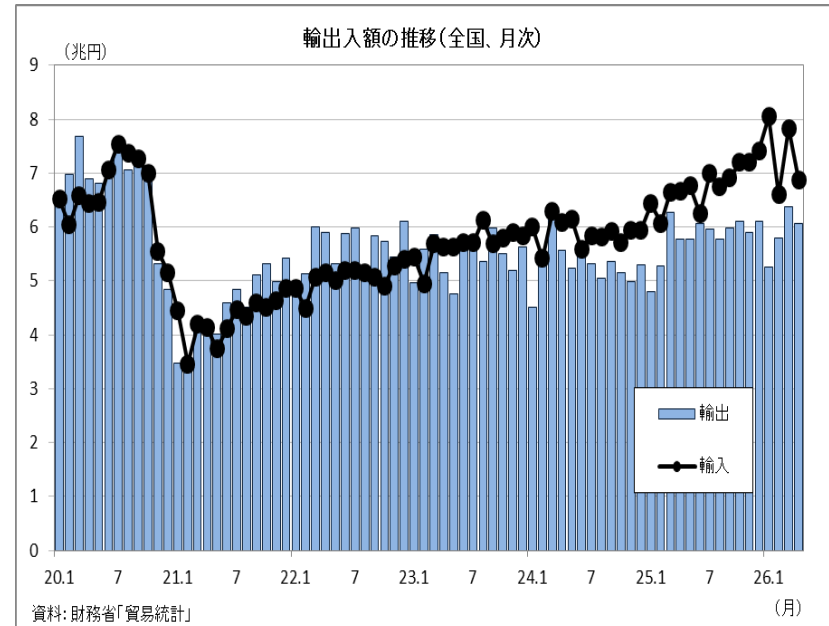


円安・原油高騰による影響について

- ◆原料高、原油高により製造原価が高くなっているが、販売価格への転嫁が難しく、利益を圧迫している。(食品製造、輸送用機械、生産用機械、プラスチック)
- ◆液化天然ガスは、ピーク時よりは若干下がったものの、依然高い。電気代も3割ほど値上がりした。(輸送用機械)
- ◆円安の影響により材料高、特に燃料高が痛い。現在は交渉で落ち着かせている状況。(非鉄金属)
- ◆今のところはないが、これから影響があると考えている。(はん用機械)
- ◆円安の影響で中国に出されていた注文が日本へ戻ってきている。(アパレル)
- ◆海外への輸出は比較的好調である。(陶磁器)
- ◆円安の関係で、輸入に関しては少し厳しいが、大きな影響が出るほどではない。
- ◆一時のことを思うと為替も安定してきたため、輸出面ではプラスの影響が出ている。(以上、刃物)
- ◆パルプが主原料なので、円安や原油価格の高騰による影響は不可避。(紙)
- ◆電気代の上昇だけでなく、配送を日々行っているためガソリン高も影響がある。(食品加工)
- ◆円安はそれほどでもないが、原油高の影響は大きい。軽油と電気代がネックである。(製材)
- ◆円安が続いているため輸入は少ない。ガソリン高騰も厳しい。(運輸)

アベノミクスの効果・影響について

- ◆景気が上向きになっていると感じられる。(輸送用機械)
- ◆商品開発のための設備投資に、ものづくり補助金を利用予定であり、その意味ではアベノミクスの恩恵を受けることとなる。(紙)
- ◆補助金・助成金を申請中。
- ◆2008～9年よりは景気の底上げ感があり、景気も安定しているように感じる。(以上、木工)
- ◆あまり影響は感じられない。(食品製造、プラスチック、陶磁器、刃物、紙)
- ◆アベノミクスの効果は感じられない。(商店街)
- ◆製造業の求人が多く、ストアスタッフ採用が難しい。(コンビニ)
- ◆海外(台湾、中国等)からの観光客が増えており、観光は少し良くなってきている。
- ◆自動車関連などに波及効果が出てきている。(以上、金融機関)



4月からの消費税増税の影響・懸念について

【製造業】

- ◆特に、大きな影響、混乱もなく完結した感が強い。(食品製造)
- ◆受注が多く順調に推移している。消費増税の反動減もない。
- ◆4月以降の生産量の落ち込みもなく、今後も影響はないと想定している(以上、輸送用機械)
- ◆消費増税の影響はほとんどない。(輸送用機械・プラスチック)
- ◆消費マインドの減退が自動車、家電にも発生している。(生産用機械)
- ◆6月の出荷量は前月比3%増。消費増税前の駆け込み需要による反動減はなくなったと思われる。(金属製品)
- ◆自動車の販売数が減少しているが、回復傾向はみられる。(プラスチック)

【地場産業】

- ◆消費増税に対する売上への影響は感じなかった。(アパレル、刃物)
- ◆消費増税による影響もあまり感じられない。(陶磁器)
- ◆消費増税前の駆け込み需要が若干あり、4月は売上の反動減があったが、大きな波ではなかった。(紙)
- ◆すぐに極端な影響が出たわけではないが、受注が減少している。(食品加工)
- ◆消費増税前の駆け込み需要受注分の生産が落ち着いてきたようだ。(木工)

【個人消費】

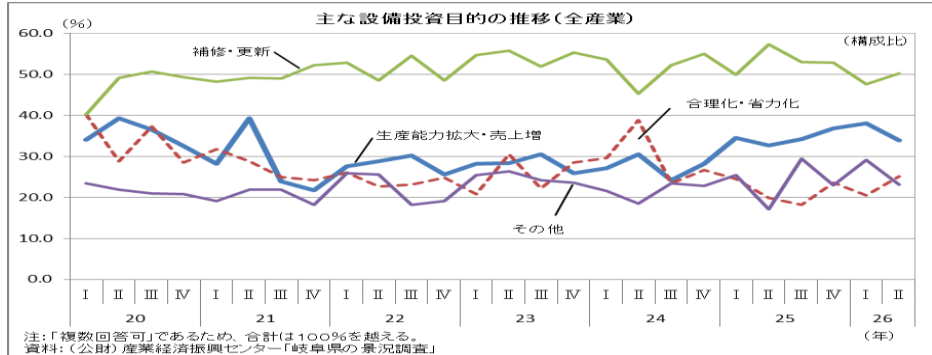
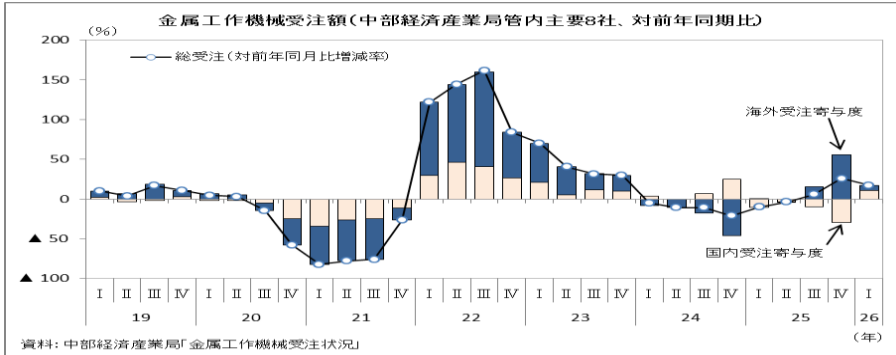
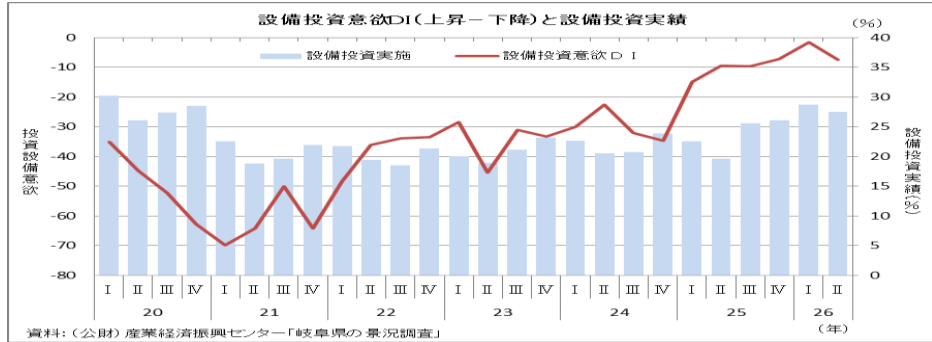
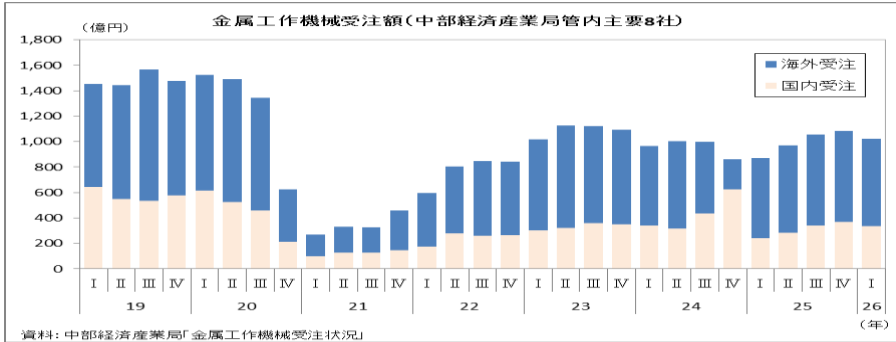
- ◆駆け込み消費による反動減は少なくなっている。(大型小売店)
- ◆消費増税の影響はあまり感じられない。全体的に消費増税の影響で消費が控えられている感がある。
- ◆高額商品が売れにくいので影響がある。増税がなければもっと売上が伸びている。(以上、商店街)
- ◆まとめ買い需要の高いタバコの売上も前年並みに戻りつつあり、「駆け込み」は世間のムードによる一時的需要であったことが窺える。また、増税による反動の影響が顕著なものは見当たらない。(コンビニ)
- ◆昨年末の消費増税前の駆け込み需要からみれば減少しているが、前年同月比97%と例年と同水準。(製材)

【その他】

- ◆多少影響はあるが、想定していたほどの影響ではない。
- ◆4月に少し落ち込んだが、5、6月は昨年度と同水準に戻ってきた感がある。(以上、金融)

設備投資

- 平成26年1－3月期の設備投資意欲は3期ぶりに低下、設備投資実績は4期ぶりに減少。「生産能力拡大・売上増」といった前向きな設備投資は減少し、「補修・更新」や「省力化・合理化」が増加。
- 傾向としては、設備投資意欲は上昇し、設備投資実績とも増加している。



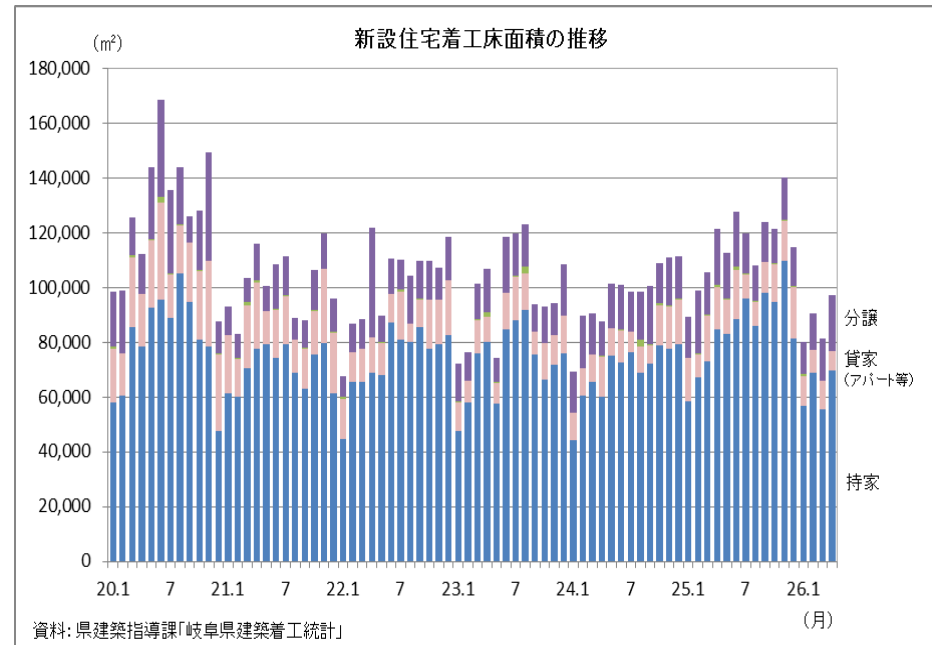
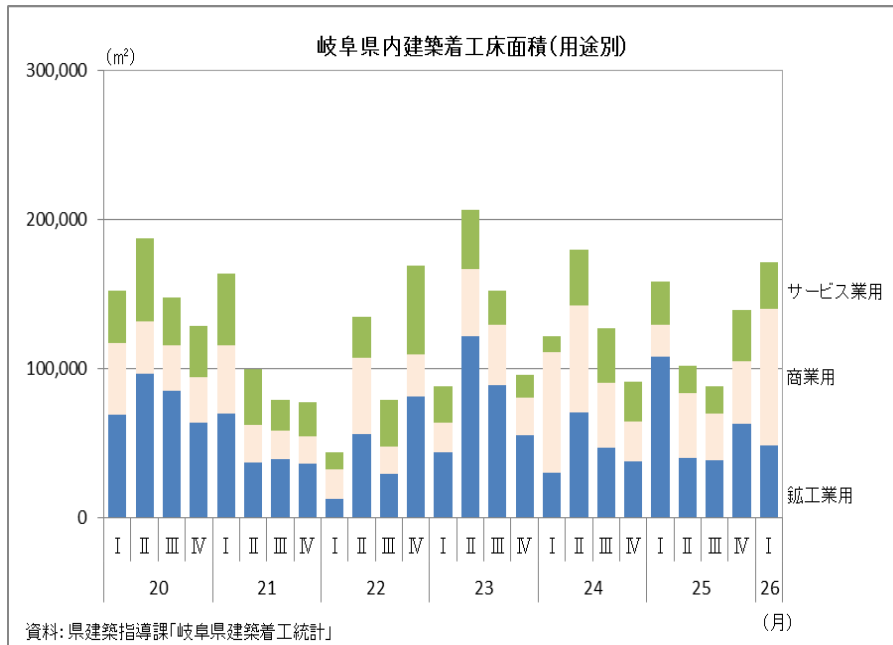
現場の動き

- ◆設備投資は、効率の良い生産と省エネ仕様の設備へと順次更新していく。(輸送用機械)
- ◆老朽化した機械の更新のみである。(輸送用機械、はん用機械、プラスチック)
- ◆数千万円以上規模の大型設備投資案件(工場、機械等)を計画、または進めている。(食品製造、輸送用機械、生産用機械器具、金属製品、非鉄金属)
- ◆工具関連の工作機械の引き合いは、回復傾向が顕著である。(生産用機械)
- ◆内製化を進める企業が増加しており、設備投資には前向きだが、ものづくり補助金次第。(関刃物産業連合会)

住宅・建築投資

○平成26年1－3月期の建築着工は、鉱工業用で大きく減少したものの、商業用で大きく増加、サービス業も増加したことにより、全体では前年同期比8.3%増となった。

○5月の住宅着工は、分譲が3ヶ月連続で前年比微増したものの、持ち家、貸家が3ヶ月連続で前年比大きく減少し、全体では前年同月比20.5%減と5ヶ月連続で前年を下回った。

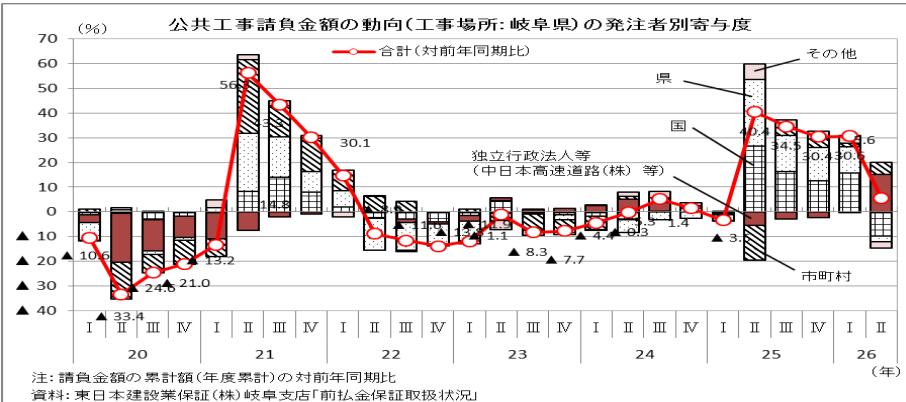
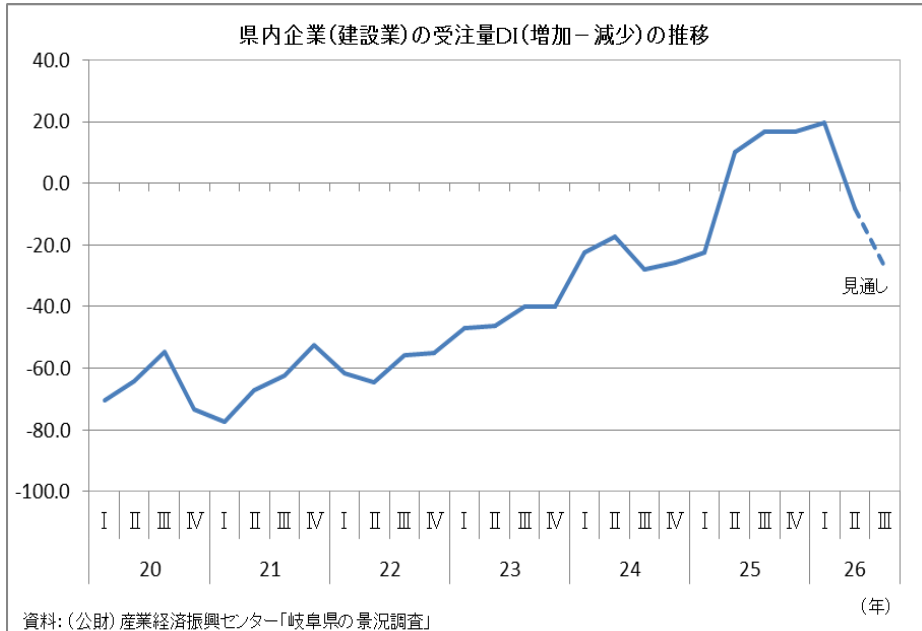
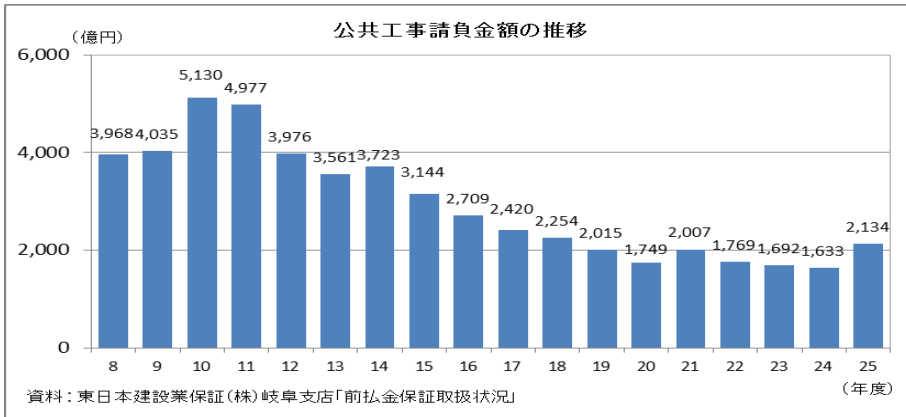


現場の動き

- ◆新築住宅の契約は、消費税増税前の駆け込み需要の影響で昨年9月まで多かったが、9月を境に減少しており、現在も減少傾向である。(住宅建設)
- ◆駆け込み需要の余韻はあるが、先行き(8～9月頃)が不透明な状況。(製材)
- ◆プレカットは前月と比べて、加工量が増加。原木の出荷は少なかったが、例年並み。(国産材市場)
- ◆原木の流通量は、特に県内の山からの出材量が少ない影響により、平年より少ない状況が続いている。スギ(A材、C材)については、需要に対し供給が不足している。(森林組合連合会)

公共工事

- 平成25年度内に県内で実施された公共工事請負金額は2,134億円で、リーマンショック以前の水準まで回復。
- 平成26年4-6月期の公共工事請負金額は、前年同期比5.6%増と5期連続で前年を上回った。国、県からの発注は減少したが、独立行政法人等、市町村からの発注が増加。



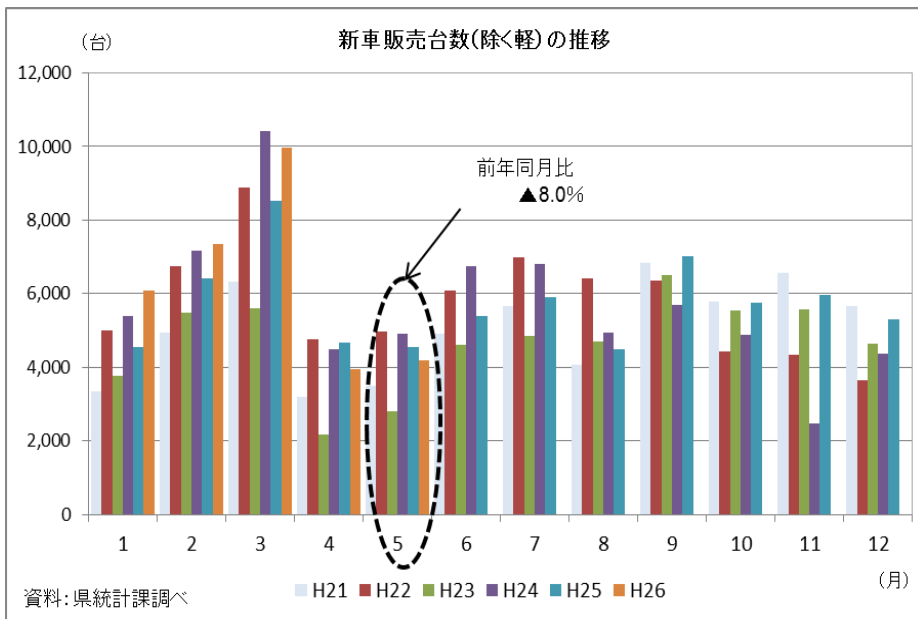
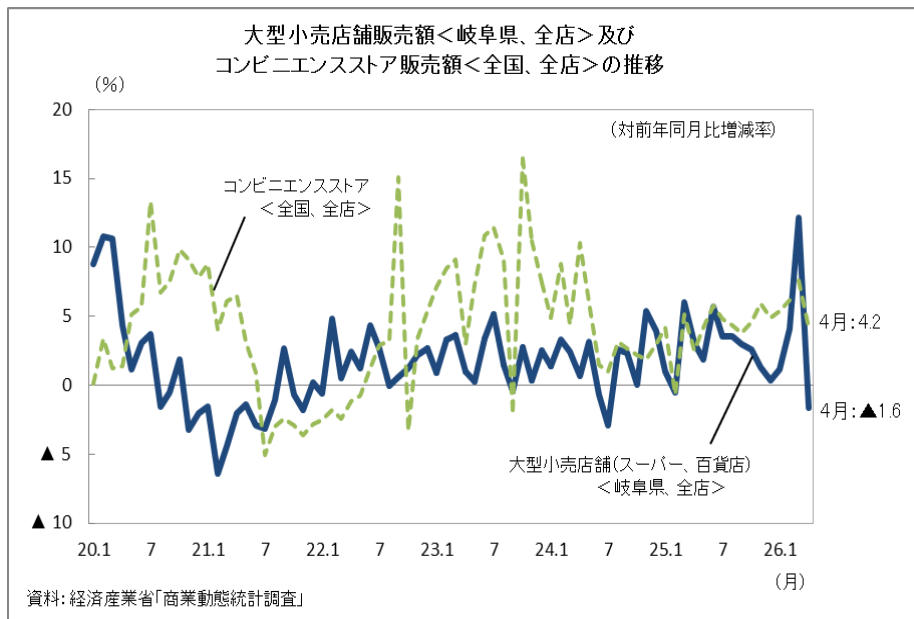
現場の動き

- ◆公共工事の受発注量としては、昨年度並みで手持ち工事量としては多くはない。昨年来の資機材の不足感は解消傾向にあるが、ダンプ等の輸送手段の確保に各社苦慮している。(業界団体)

個人消費(流通・小売)

○4月の大型小売店販売額は、前年同月比1.6%減と14ヶ月ぶりに前年を下回った。

○5月の自動車販売(除く軽)は、前年同月比8.0%減と2ヶ月連続で前年を下回った。



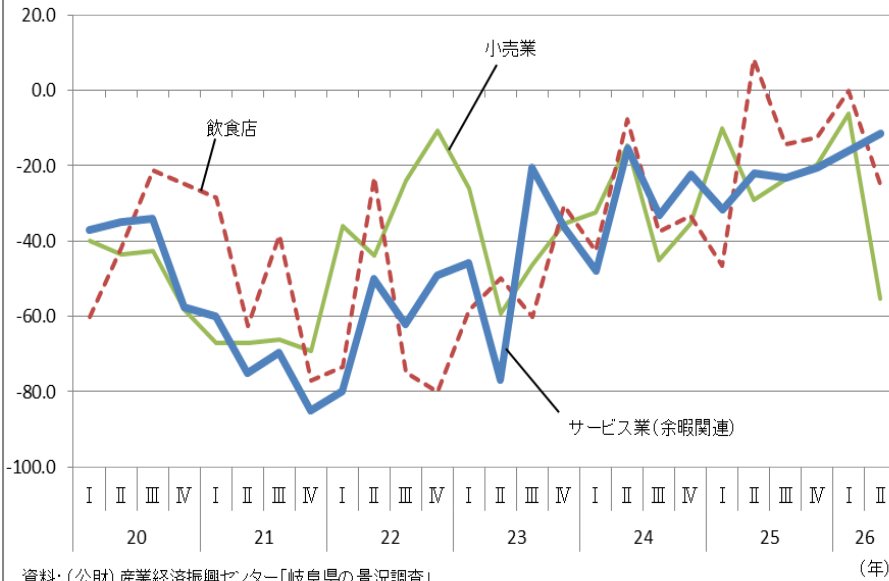
現場の動き

- ◆売上、来場者数ともに前年同月比95%。ボーナス商戦は7月に入ってからだと思われる。
- ◆売上、客数ともに前年同月比90%。増税だけが理由ではないが、8月までは厳しい状況と危惧している。
- ◆売上、客数ともに前年同月比95%。部門別でも全部門で売上、客数ともに前年割れ。(以上、大型小売店)
- ◆受注車数は前年同月比70%。整備台数は同130%。(自動車)
- ◆売上は前年同月比97%。惣菜や飲料品は良く売れている。(食品スーパー)
- ◆売上は前月比微増、前年同月比微減。購入単価は上がっており、消費が悪い方向に推移するとは感じていない。(スポーツ用品)
- ◆4月に消費が落ち込み、5月から回復傾向が見られた中、6月は前半はエアコン・冷蔵庫の売上が上がったが、後半は下がった。全体の売上としては、前年比8割程度で芳しいとは言えない。(家電)

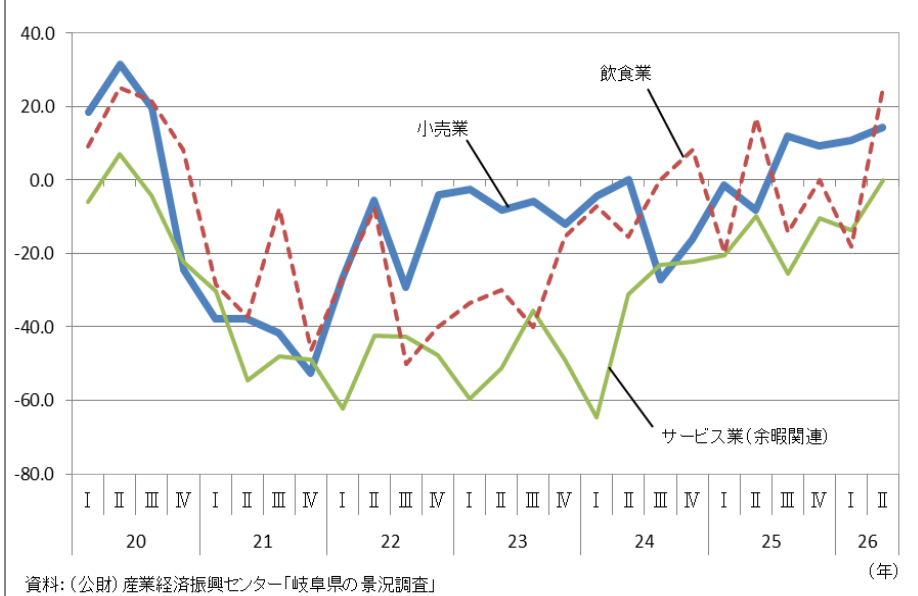
個人消費(流通・小売)ー2

○平成26年4ー6月期の小売業、飲食業について、売上高は減少したが、販売価格は上昇した。
サービス業については、売上高は増加し、販売価格も上昇。

県内企業の売上高DI(増加ー減少)の推移



県内企業の製品販売価格DI(上昇ー下降)の推移



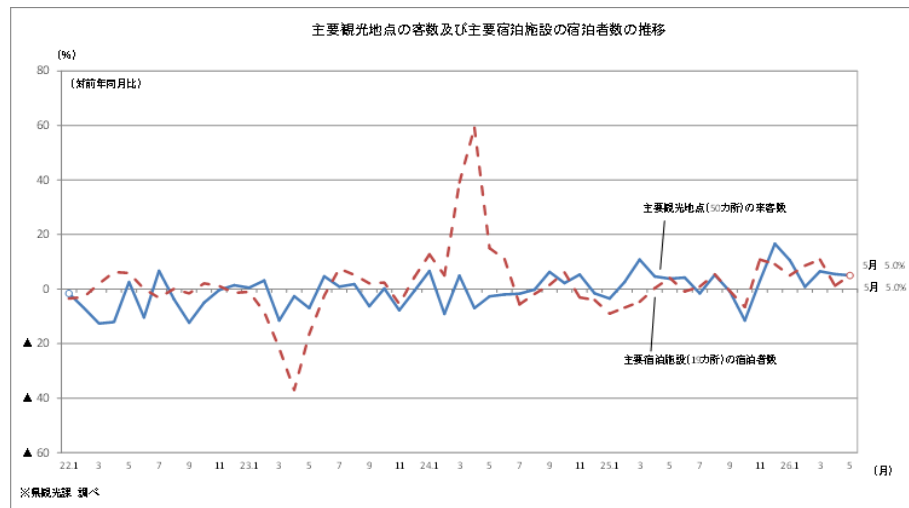
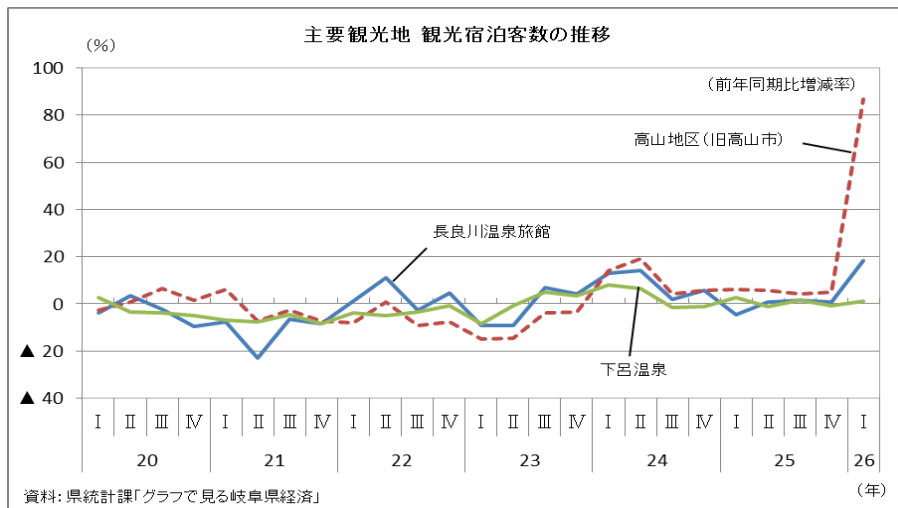
現場の動き

- ◆6月の売上は、婦人服は前年同期比90%、飲食店は同93%。メガネ店は微増。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆6月の売上は、ブティックが前年同月比90%、和菓子店が同98%。(大垣市商店街)
- ◆6月の売上は、お土産・雑貨店が前年同月比105%、衣料品店は107%。(高山市商店街)
- ◆6月の売上は、酒類が前年同月比微増、子ども服は微減。(多治見市商店街)
- ◆衣料を含む物販全体として、既存店ベースで売上、レジ客数ともに前年同月比で減となった。飲食は2区画改修により、売上、レジ客数ともに前年同月比で減となったが、既存店では前年を上回った。(アクティブG)
- ◆6月(1~22日)の1日あたり1店舗平均売上は前年比96.3%、同客数は前年比97.1%。(コンビニ)
- ◆売上、受注件数は大きく落ちてはいないが、駆け込み需要の反動がある。前年同月比10%減。
- ◆売上、受注件数は前年同月比で微増。(以上、運輸業)

観光

○平成26年1-3月期の観光(宿泊)客数は、長良川温泉旅館が前年同月比18.4%、高山地区(旧高山市)が同86.7%、下呂温泉が同1.3%と全ての地区で前年を上回った。

○5月の主要観光地における観光客数は、前年同月比5.0%増と7ヶ月連続で前年を上回った。また、主要宿泊施設における宿泊者数も、同5.0%増と7ヶ月連続で前年を上回った。

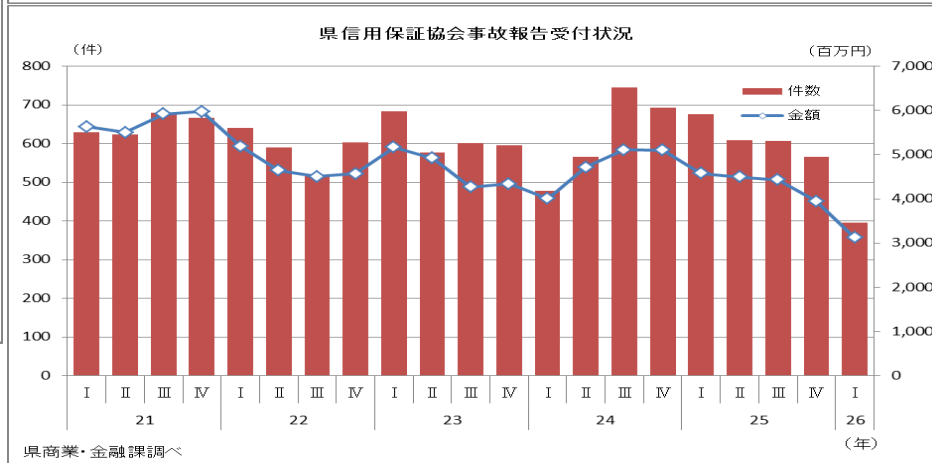
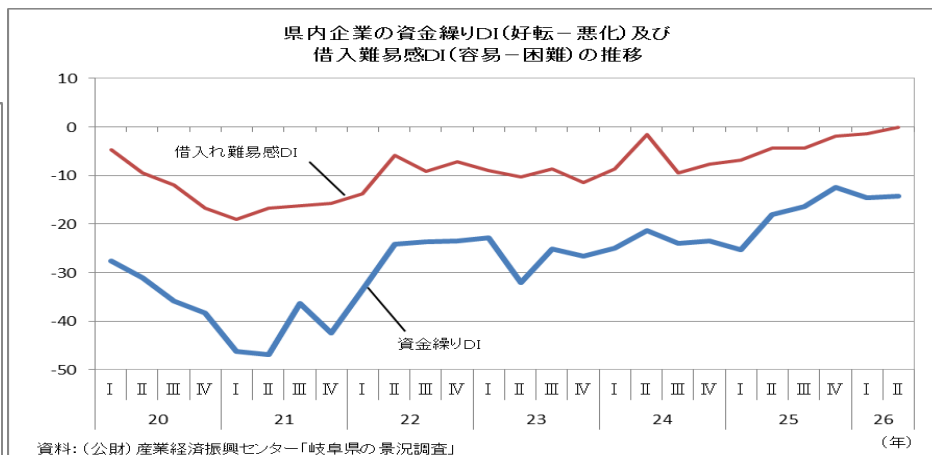
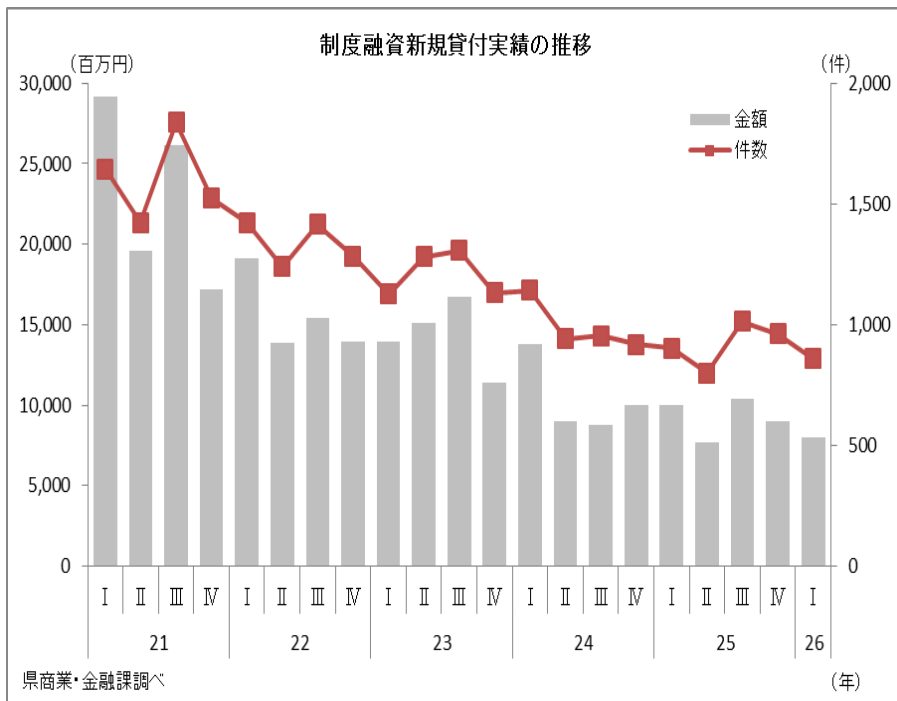


現場の動き

- ◆ 鶺鴒とセットになった募集型ツアーやインバウンドの宿泊が多かった。
- ◆ インバウンドは特に台湾からの予約が好調で、前年に比べ3割増。(以上、岐阜市内の宿泊施設)
- ◆ インバウンドが好調で、全体では前年に比べ多少増加。
- ◆ インバウンドは対前年比約2倍の集客だが、春頃の勢いはなくなってきた。(以上、大垣市内の宿泊施設)
- ◆ 6月の宿泊予約は前年並みを確保。また、7~8月はネット予約の個人客を中心に堅調。
- ◆ インバウンドは4、5月の勢いがなくなってきた。
- ◆ インバウンドが前年の2倍強と今月も好調。(以上、高山市内の宿泊施設)
- ◆ 6月の宿泊予約はインターネット、個人、団体とも概ね前年並みを確保。(奥飛騨の宿泊施設)
- ◆ アルペンルート関係は好調だが、落ちつきつつある。(下呂市内の宿泊施設)

資金繰り

- 新規融資実績は平成21年秋口から沈静化が続いていたが、下げ止まりの兆しを感じる。
- 資金繰りについては回復基調に一服感があるが、借入難易度は緩やかに改善している。

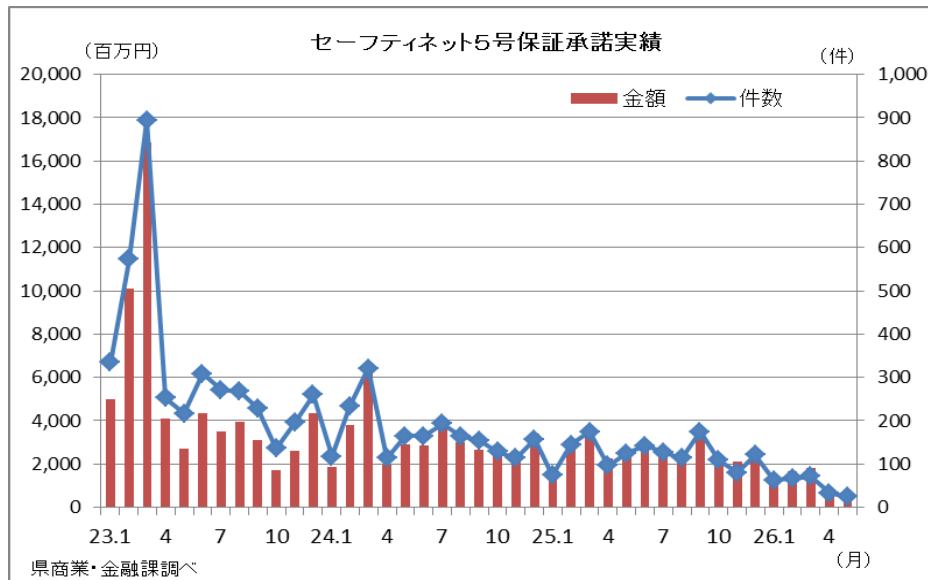
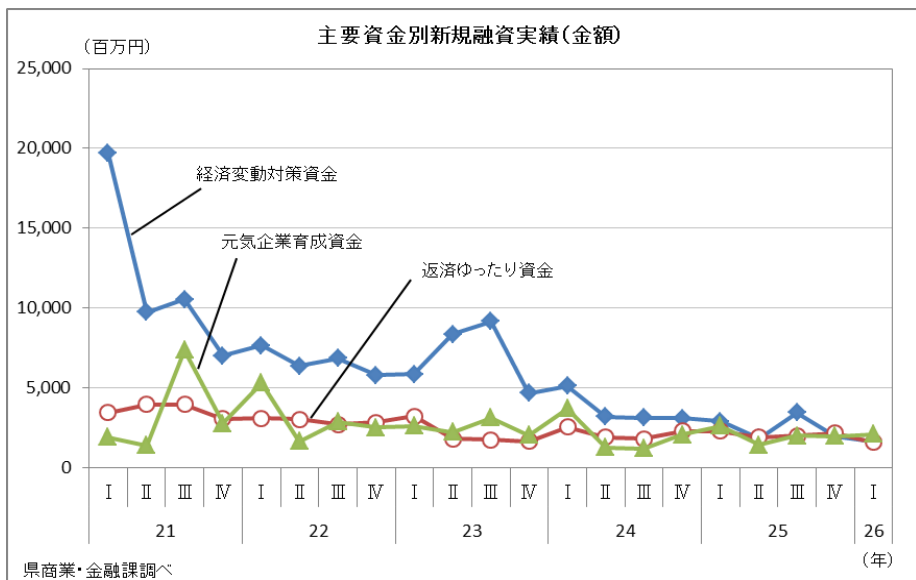


現場の動き

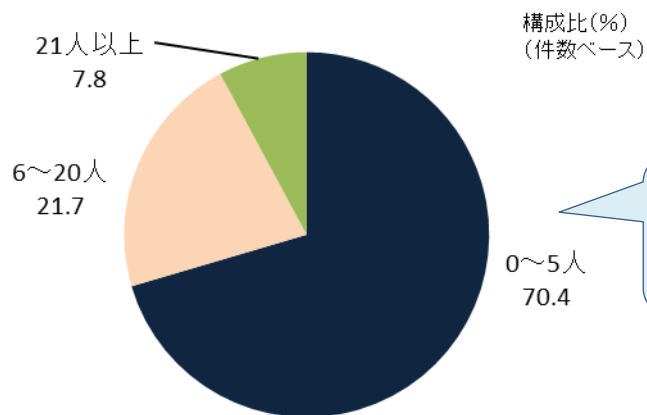
- ◆借入金はどんどん減っていて、借入をしようとも考えていない。(輸送用機械)
- ◆ボーナス資金が必要なため、運転資金需要が出てくるのではないと思われる。
- ◆運転資金のニーズはあるが、医療・福祉関連を除き、設備資金のニーズは少ない。(以上、金融機関)

資金繰りー2

- 資金繰りを改善するための運転資金である「経済変動対策資金」の融資実績は、21年秋以降減少傾向が続いている。
- 引き続き、製造業・建設業の利用が多く、従業員5名以下の零細企業が7割を占める。

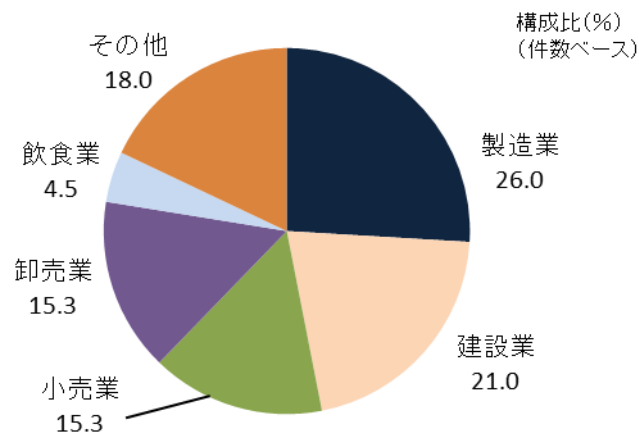


県制度融資 利用企業(従業員規模別)
(H25年4月～H26年3月計)



5名以下の零細
企業の利用が
7割を占める

特別経済対策資金 利用企業(業種別)
(H25年4月～H26年3月計)

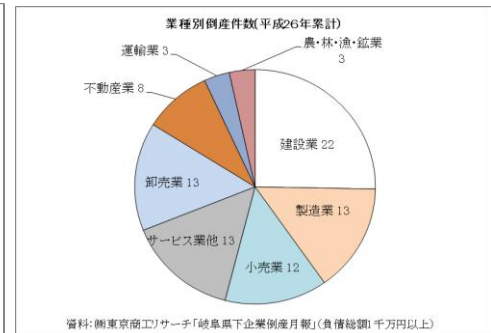
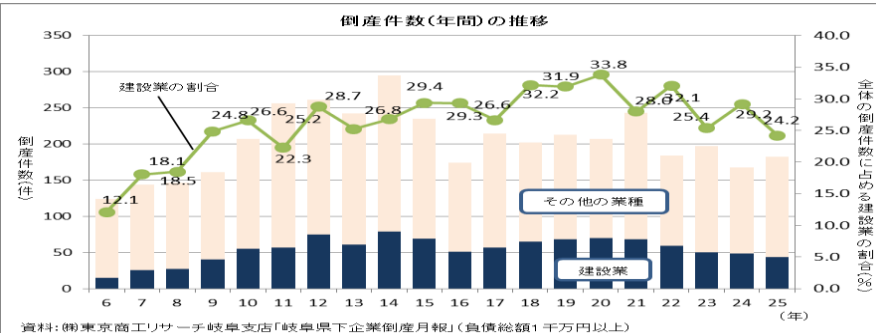
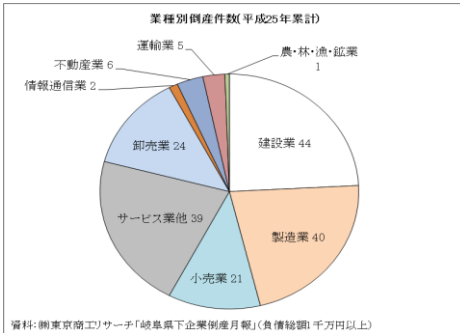
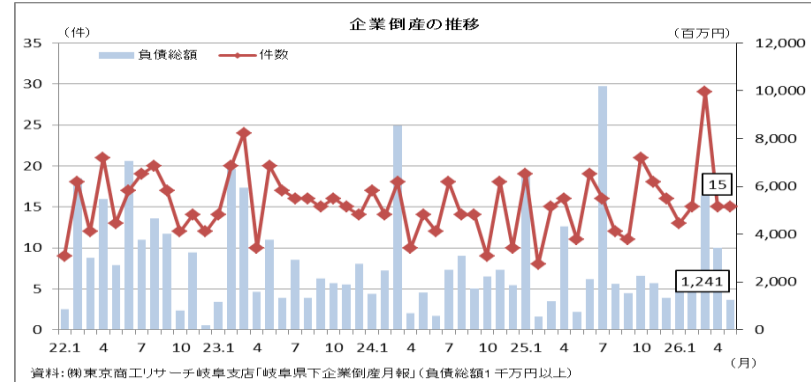
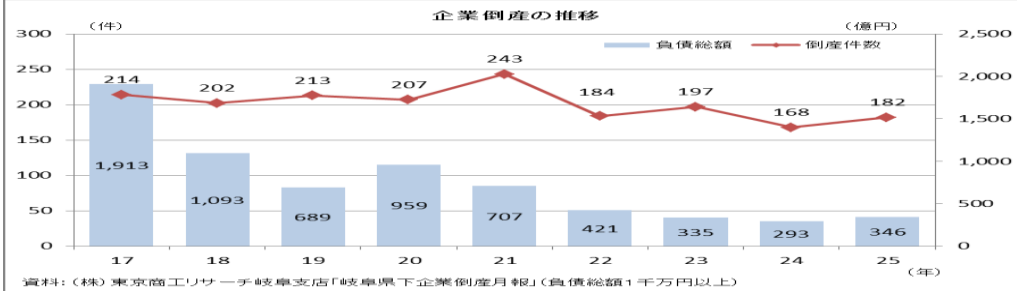


倒産

○平成25年の倒産件数は182件となり、前年から14件増加。負債総額は346億円で2年ぶりに増加に転じた。

○業種別では、建設業と製造業で約5割を占めている。

○5月の倒産件数は前年同月比4件増、前月比同数の15件となった。

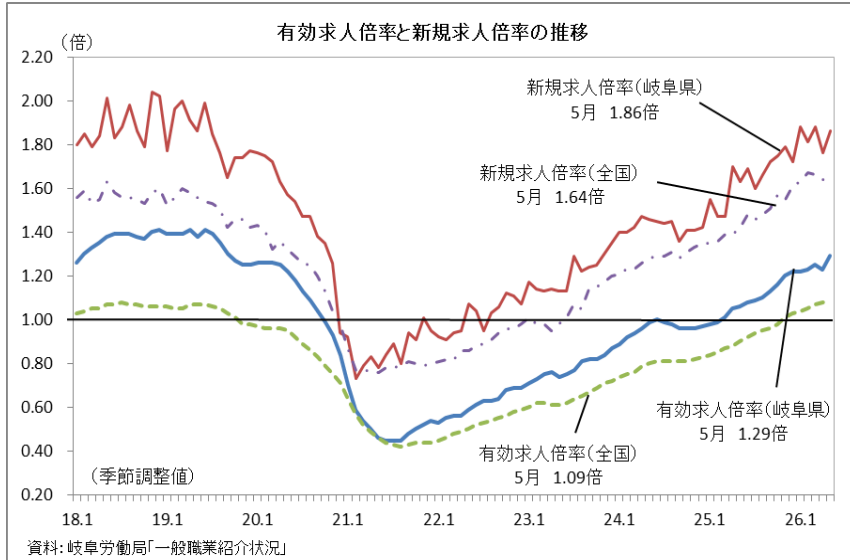


専門機関の分析(東京商工リサーチ)

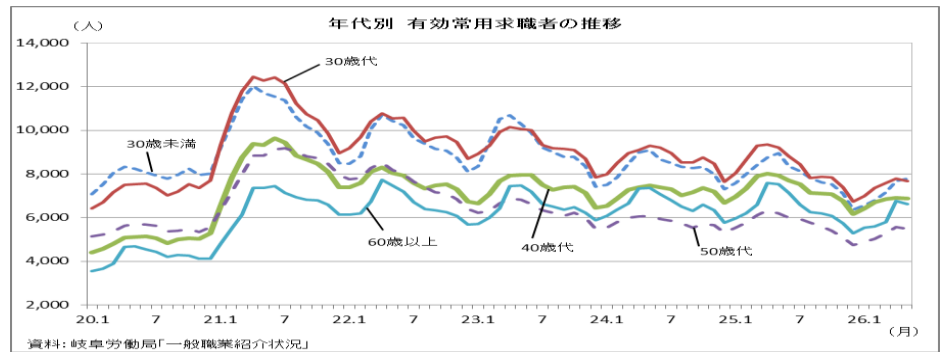
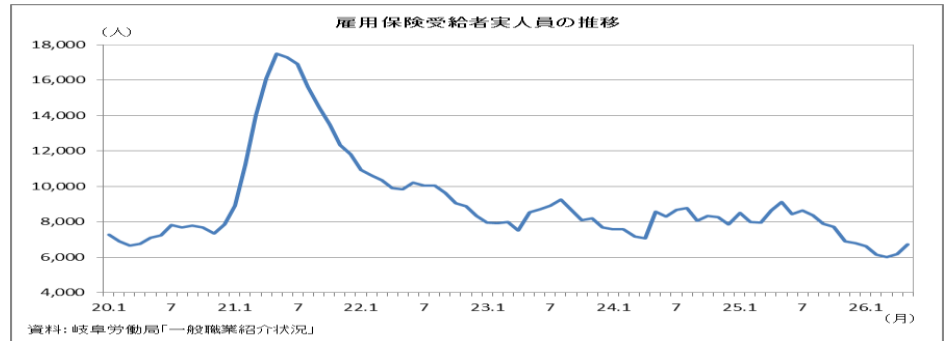
- ◆平成26年5月の県内倒産件数は15件、負債総額は12億4100万円となった。倒産件数は前年同月比4件増、前月比同数、負債総額は前年同月比66.6%減、前月比63.9%減となった。
- ◆業歴10年以上と比較的業歴の長い企業が過半数を、10人未満の中小零細企業が大部分を占めた。
- ◆消費税増税が直接的な増加要因とまではなっていないが、人手不足や人件費増加、為替変動による原価高騰が経営環境に影響を与えている。業績改善が遅れている中小零細企業への金融機関の対応が注目されるが、低収益体質を抜け出せない企業を中心に、夏場以降を境に緩やかな増勢に転じる可能性もある。

雇用

○5月の有効求人倍率は1.29倍と前月より0.06ポイント上昇。また、新規求人倍率は1.86倍と前月より0.10ポイント上昇。



○5月の雇用保険受給者人員は前年同月比28.4%減と11ヶ月連続で前年を下回った。

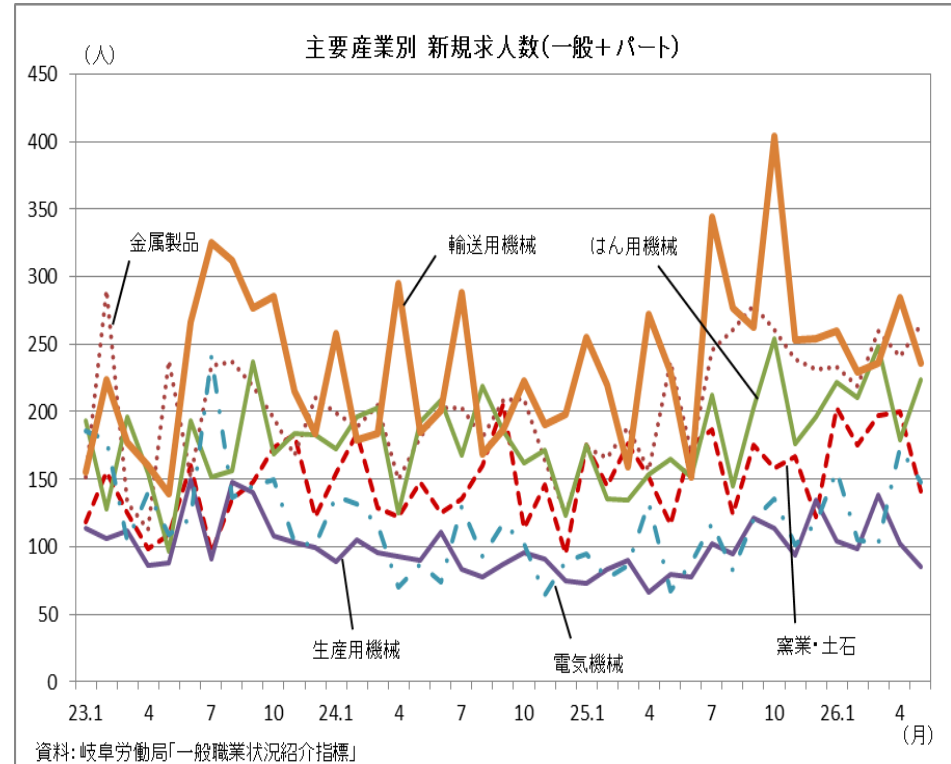
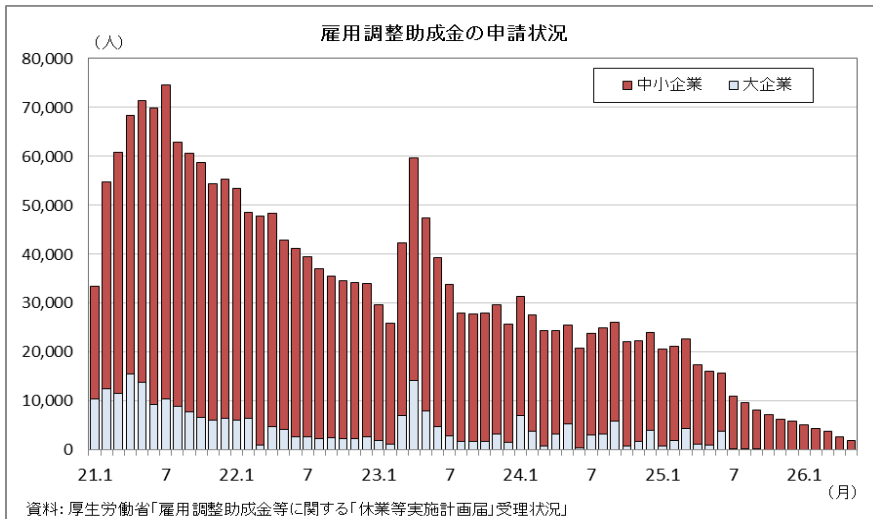
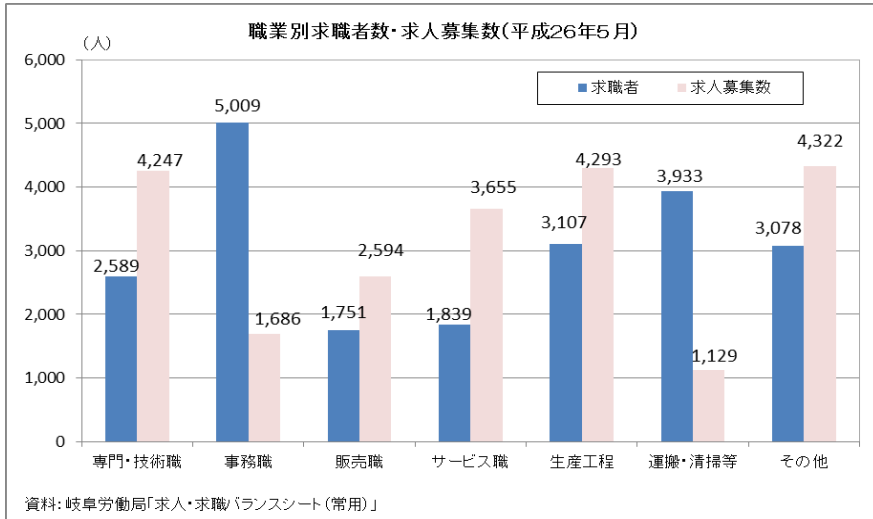


現場の動き

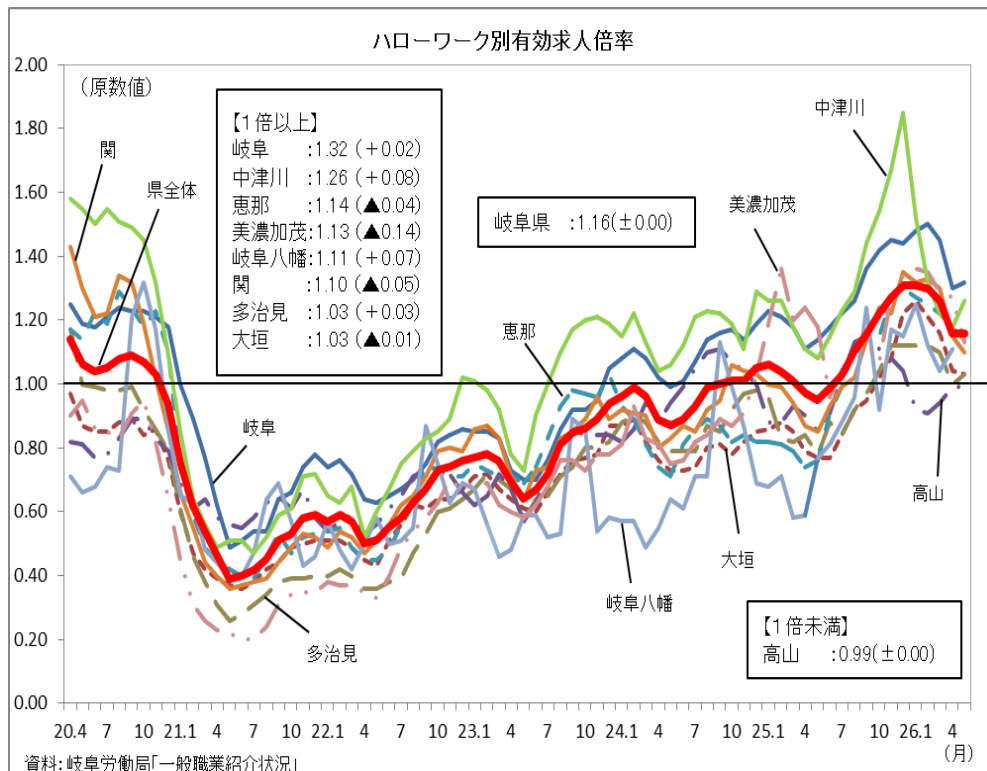
- ◆新規採用に対する応募が減少傾向。キャリア採用は条件でのミスマッチが多く成約率が低い。(食品製造)
- ◆来春の高卒者募集において、求人倍率が1.4倍と高く、大手企業への人材流出が心配。(輸送用機械)
- ◆製造業を中心に求人が多いことから、ストアスタッフの採用が難しい状況は続いている。(コンビニ)
- ◆ドライバーの不足感はある。高齢化が進んでいる中、力仕事や待遇が悪い仕事をしたくない人が増加しているように感じられる。(運輸業)
- ◆求人数は一定数保たれている(昨年並み)。求職者数は仕事を選択できる市場状況。
- ◆新卒・第2新卒での派遣登録も多くなってきており、専門知識や経験を持った人材の不足感は否めない。
- ◆市場人材不足は進んでおり、企業の求める希望値と求職者とのミスマッチは増加傾向。(以上、人材派遣会社)

雇 用(職業別)

- 「事務職」や「運搬・清掃等職」では、求職者数と求人募集数のギャップが大きい状況が続いている。
- 5月の新規求人は、金属製品、はん用機械が前月より増加し、主な産業すべてで前年を上回った。
- 雇用調整助成金は震災直後に急増したが、現在は減少傾向。



雇 用(地域別)



<ハローワーク岐阜>

- ◆ 求人者数は横ばいだが、求職者数は減少。
- ◆ 雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク大垣>

- ◆ 求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆ 雇用保険の受給者数は減少。

<ハローワーク関>

- ◆ 求人者数は増加しているが、求職者数は横ばい。
- ◆ 雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆ 求人者数、求職者数はともに横ばい。
- ◆ 雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク多治見>

- ◆ 求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆ 雇用保険の受給者数は減少。

<ハローワーク恵那>

- ◆ 求人者数は横ばいだが、求職者数は減少。
- ◆ 雇用保険の受給者数は増加。

<窓口の様子>

- ◆ 多治見を除き、先月と比べて同じくらいかやや空いている。

<ハローワーク中津川>

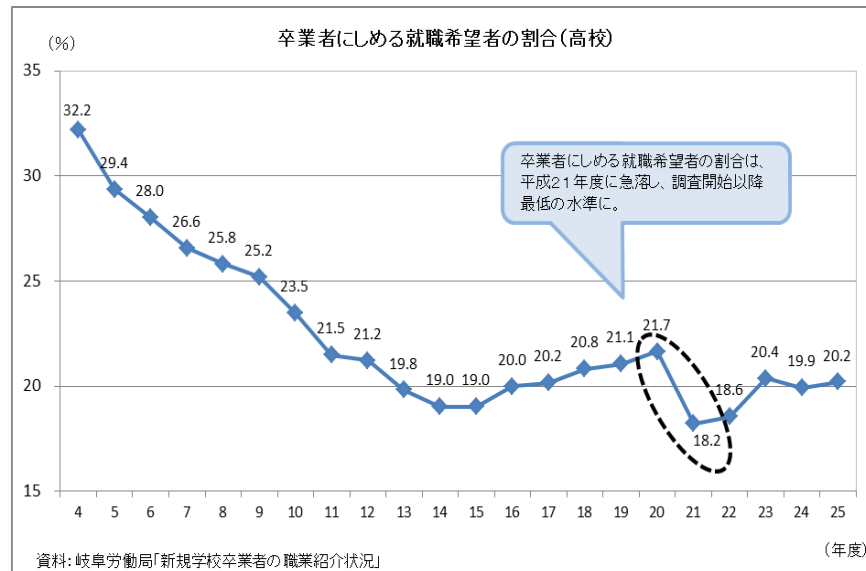
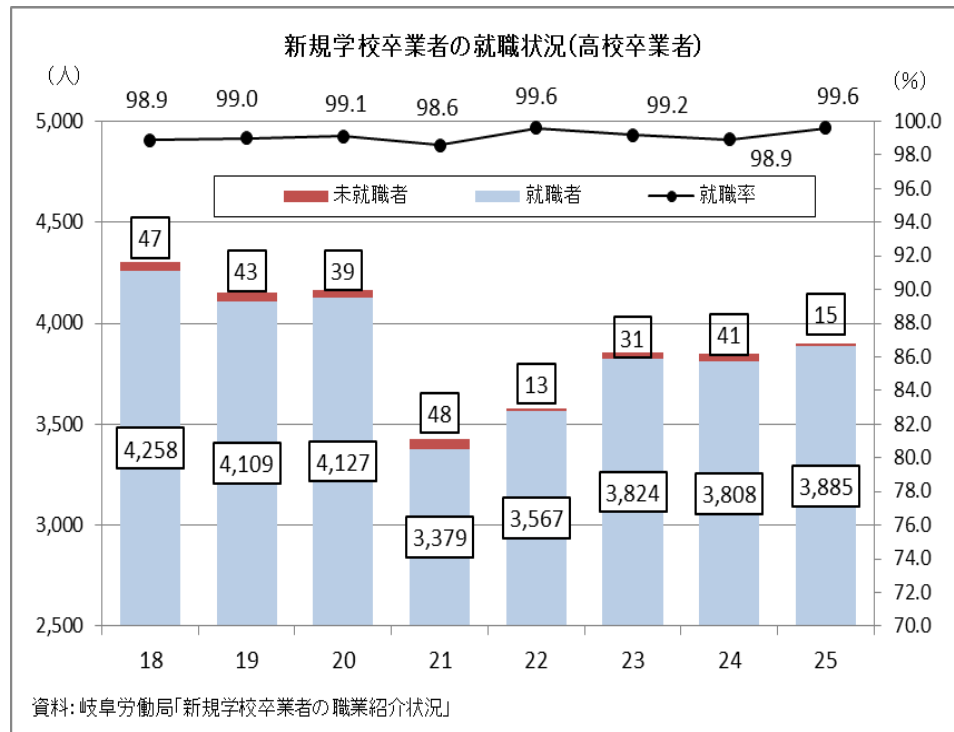
- ◆ 求人者数は増加しているが、求職者数は減少。
- ◆ 雇用保険の受給者数は減少。

<ハローワーク高山>

- ◆ 求人者数は増加しているが、求職者数は減少。
- ◆ 雇用保険受給者数は減少。

雇 用(高校新卒者の就職)

○平成25年度の高校卒業者の就職率は0.7ポイント上昇し、平成22年度の水準まで回復。就職希望者割合が上昇し、求職者が増加したことで就職内定者数は増加傾向。



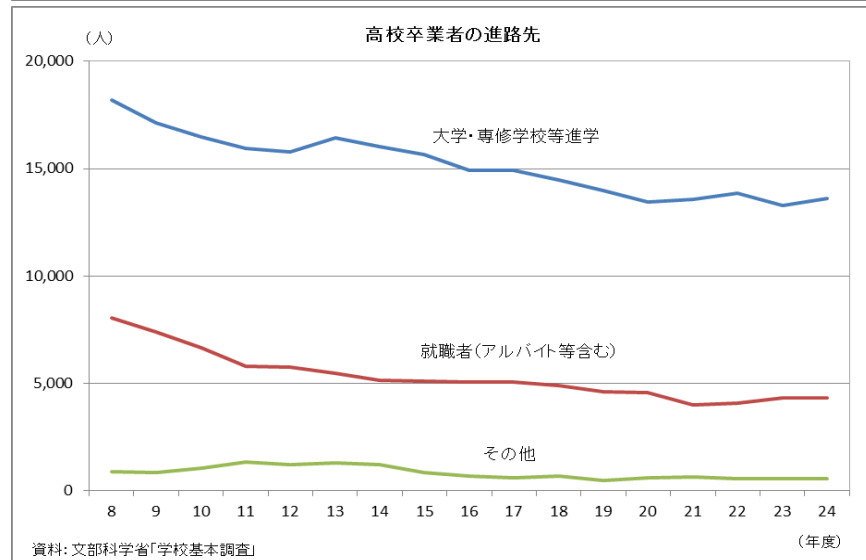
現場の動き(内定状況)

<ハローワーク岐阜、大垣、多治見、高山、恵那、関、岐阜八幡、美濃加茂>

◆高校卒業者の内定は横ばい。

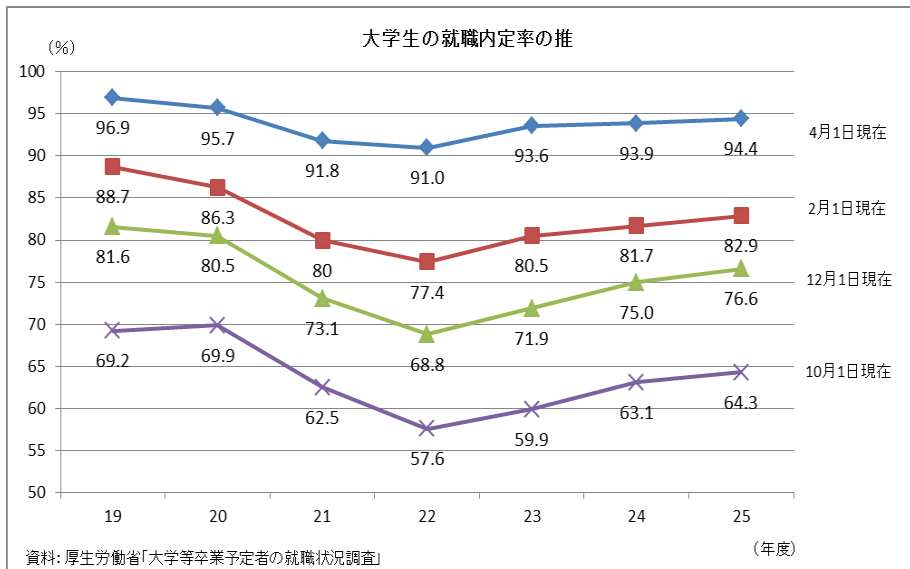
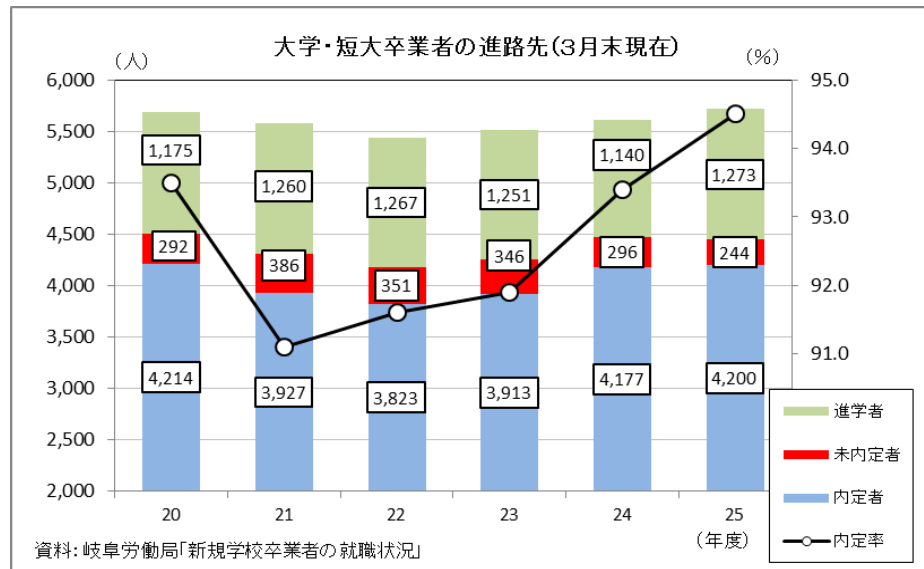
<ハローワーク中津川>

◆高校卒業者の内定は減少。



雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○平成25年度の大学・短大卒業者の内定率については、下げ止まりの兆しを感じられ、全国では過去5年間に於いて、岐阜県は過去6年間に於いて最も高くなった。
また、岐阜県は全国と同水準まで改善。



現場の動き

【岐阜県内の主な大学】

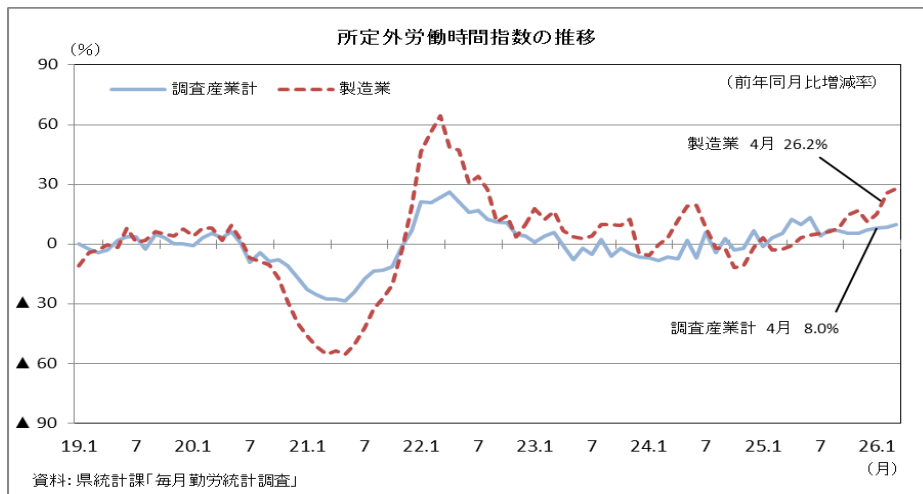
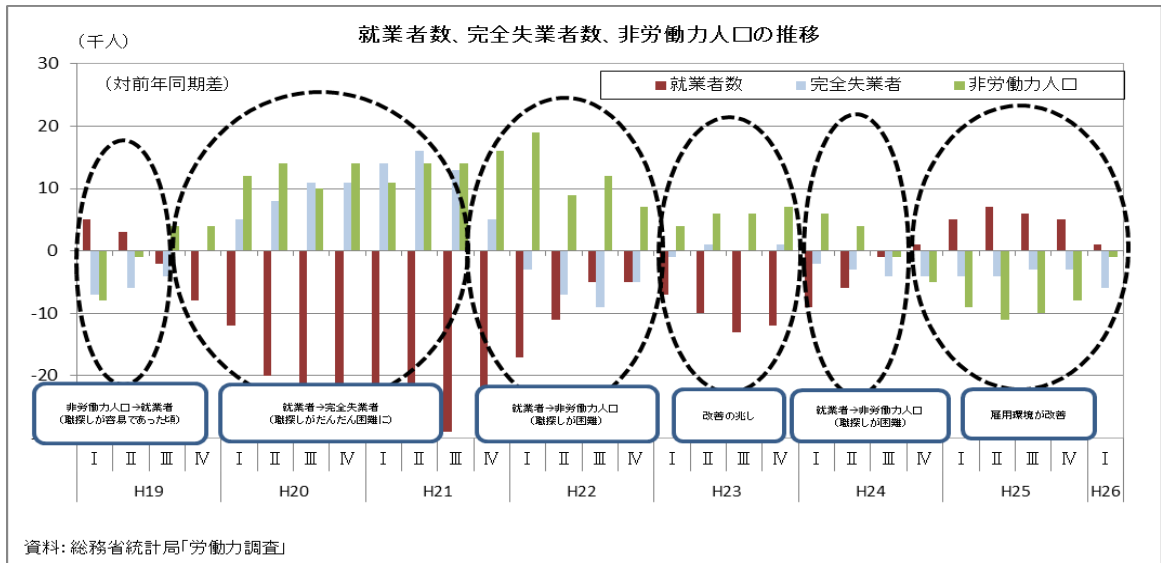
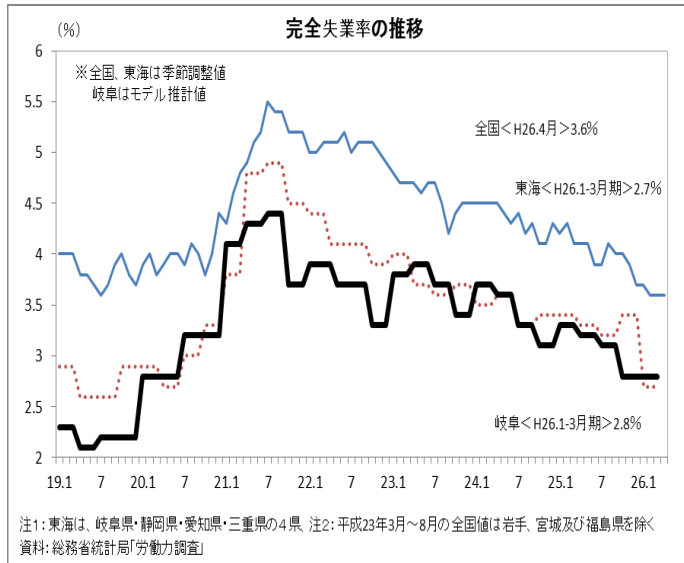
- ・15年卒の就活状況は、昨年より早いペースで進んでいる。
- ・15年卒の就活状況は、内定率(学生報告ベース)30%強。求人情報は昨年より多い。
- ・15年卒の就活状況は、内定率30~40%(昨年より3~4ポイント上昇)で推移。

【愛知県内の主な大学】

- ・15年卒の就活状況は、内定率40%強。昨年よりスタートも早く、内定のペースも早い。
- ・15年卒の就活状況は、複数内定を得た学生がいる中、結果が出ず、相談に何度も訪れる学生もいる状態。
- ・15年卒の就活状況は、大手企業からの複数内定を得る学生が目立つ一方、求人増でも厳選採用レベルが維持され、結果が出ない学生との2極化が伺える。

雇 用(完全失業率)

○平成26年1-3月期の完全失業率は2.8%と前期比横ばい。
 ○平成21年以降、職探しが困難な状況のなか、平成23年に改善の兆しを見せた。平成24年に再び厳しい状況となったが、平成25年以降に雇用環境は改善している。



＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業全体では、輸入原料の高騰によるコスト高が続いているが、輸送用機械関連を中心に受注や生産は好調を維持している。
- 直近の円安の動きについては、輸出を主とする企業の売上が増加している一方で、原材料価格及び燃料価格の上昇が続き、製造コストを押し上げている。しかし、販売価格への転嫁が進んでいない企業が多く、利益を圧迫している。
- 地場産業は、消費増税前の駆け込みで好調だった木工も生産に落ち着きを見せ始め、他の業種については依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いている。
- 小売について、消費増税前の駆け込み需要の反動減が見られる。食料品は回復基調にあり、衣料品は回復の兆しを見せているが、自動車や家電、住宅関連は回復が鈍い状況にある。
- 観光は、施設によってバラつきはあるものの、トータルで見た宿泊客数はやや前年を上回った。インバウンドは例年、ピークアウトする時期であり、前月に比べると勢いは衰えているものの、台湾等を中心に好調を維持している。
- 雇用面では、製造業を中心に、生産量や業務量の増加に伴い人材の確保に努める企業が多数見受けられ、求職と求人のミスマッチも出始めている。
- 企業の資金繰りは、横ばい状態が続いており、新規借入れ需要は依然低調だが下げ止まりの兆しが見られる。